



“Catalog Pocket”
でも配信しています



あげまつ



第11回ひのきの里の秋まつり・第35回全国木馬引き大会

11月1日(土)に第11回ひのきの里の秋まつりと第35回全国木馬引き大会が開催されました。

秋まつりには出店やキッチンカーが上松駅前周辺に並び、吹奏楽や和太鼓の演奏、ダンス・バレエの披露など催し物もあり賑わいました。また、ひのきの里総合文化センターでは「健康と福祉のつどい」も開催されました。

木馬引き大会では町内外から多くのチームが参加し、駅前ロータリーでは参加チームへの応援の声が響きました。
(関連記事 4P)

令和7年10月末現在

世帯 1,945 戸(ー 1)
男 1,881 人(ー 1)
女 1,951 人(ー 6)
計 3,832 人(ー 7)



美林ちゃん



太郎ちゃん

令和七年度

上松町功労者表彰式

今年度は、二名の方と一団体が功労表彰を受賞、一団体に感謝状が贈呈されました。今回表彰を受けられた皆様の功績について、ご紹介します。



功労表彰（地方自治振興功労）

前上松町長

大屋 誠 氏



氏は、平成二十九年四月から令和七年四月までの二期八年に亘り町長の任期を全うされました。

在任中は、長年の懸案事項でありました役場新庁舎建設事業を推進し、吉野地区小水力発電や田代地区定住促進住宅の整備、才児牧場養豚場新設への支援など、産業振興と快適で安心して暮らせる福祉のまちづくりに全力で傾注し、過疎地域の振興と地方自治の振興に貢献しました。また、令和三年八月の豪雨災害では、宮戸沢の土石流により断水した世帯に毎日給水タンクを配布し、B & Gプールのシャワーを風呂の代替えに開放するなど、被災者に寄り添いながら支援を行いました。新型コロナウイルス感染症対策では、落ち着いた行動と互いに思いやる気持ちを町民に訴え、多くの医療関係者に協力を仰ぎながら精力的にワクチン接種を行い、未曾有の困難に立ち向かいました。

氏は、温厚篤実で行動力に富み、卓越した識見と判断力により町政発展のために残した数々の足跡は他の模範であります。

功労表彰（文化の向上）

第六十三回伊勢神宮御杣始祭杣頭

橋本 光男 氏



氏は、二〇代前半から木曾の営林署に勤務し、長く林業に携わって来られ、三十二歳の時に初めて御杣始祭に参加しました。五十二歳で迎えた前回の御杣始祭は三ツ紐伐り保存会の一員として参加し、伝統の技法を受け継いで来ました。そして三回目となる今回は杣夫の代表である杣頭としてその重責を担いました。御杣始祭当日、降りしきる雨の中赤沢の深い森に杣の打つ斧の音だけが響き、伐採開始から約一時間後「大山の神 左斧 横山 一本寝るぞ いよいよ寝るぞ」の掛け声と共に、最後の斧が入られ御神木がゆつくりと、そして伐倒位置へ正確に伐り倒されました。

氏の持つ知識や技能の積み重ねによる物事を多角的に捉え予測する力、また十分な経験に裏打ちされた直感的な洞察力は三ツ紐伐り保存会の組織力を引き上げ、二〇年後の御杣始祭へ繋ぐために杣の技術を他の杣夫へ指導された功績は誠に顕著であります。

功勞表彰（文化の向上）

三ツ紐伐り保存会



三ツ紐伐り保存会は、二〇年に一度行われる伊勢神宮御杣始祭で御用材の伐倒を目的とし、斧で伐木をする技術を伝承するために平成十六年十二月に発足されました。現在は二〇代から八〇代までの木曽の林業関係者をはじめ二十七名が所属し、古式の三ツ紐伐りを後世に伝えるために日々技術の習得に習練しております。

本年六月三日に行われた第六十三回伊勢神宮御杣始祭において、杣友達が約千三百年続く伐木技術を披露し、推定樹齢三百年の御神木を無事伐倒させました。雨が降る中、斧一振り一振りに感謝を込める姿は、見る者に感動を与え、ひのきの里上松町の魅力向上にも大きく寄与された功績は誠に顕著であります。

感謝状

伊勢神宮御神木祭
木曾奉賛会



伊勢神宮御神木祭木曽奉賛会は、千三百年の歴史継承が行われている伊勢神宮式年遷宮行事に際し、御杣始祭をはじめ、御神木祭、木曽郡の芸能祭など、多くの行事の企画運営の軸として、木曽ひのきの価値の向上、上松町をはじめ木曽郡の伝統文化の紹介など、木曽の存在を全国的にPRし、もって木曽郡の活性化に大きく貢献されました。

また、二〇年に一度の大事事となりましたが、滞りなく無事、盛大のなか大成功で納めていただきました。

会の活動に心から感謝申し上げ、ここに感謝状を贈呈し感謝の意を表します。

多治見砂防国道事務所
砂防教室

十月十五日（水）に上松小学校四年生を対象とした砂防教室が、国土交通省中部地方整備局多治見砂防国道事務所により開催されました。この砂防教室は、小学生に砂防のことを身近に感じてもらうため例年開催されており、今年は東奥地区（高山上流）において施工中の板橋沢砂防堰堤付近で行われました。砂防教室では、座学や土石流実験装置、測量、堰堤3D完成予想画像の視聴などを体験し、土砂災害の怖さ、砂防ダム的重要性や役割などを学びました。



土石流実験装置



堰堤 3D 予想画像視聴



施工中の板橋沢砂防堰堤（写真は付け替え道路橋）

第十一回ひのきの里の秋まつり 第三十五回全国木馬引き大会

第十一回目となる、ひのきの里の秋まつりが十一月一日（土）に、上松駅前周辺で開催されました。

上松町ひのきの里総合文化センターでは、ホールを中心として健康と福祉のつどいも同時開催されました。

周辺商店やキッチンカーの出店のほか、友好都市の愛知県豊明市と和歌山県那智勝浦町の皆さんにお越しいただき、特産品販売などが行われました。それぞれのブースでは、子どもからお年寄りまで大勢の方が、思い思いに買い物等を楽しんでいました。

ふれあい広場と広小路交差点に設けられたステージでは、吹奏楽や和太鼓演奏、ダンス・バレエの発表のステージイベントが行われた他、那智勝浦町がマグロの刺身を無料配布しました。

午後には、御神木を模したひのきの丸太に乗せた木製のそりを曳いて速さを競う、全国木馬引き大会が駅前ロータリーを会場に行われました。今年で三十五回目を迎えた今



回の大会では、ロータリー一周のタイムを競うタイムレースの部、衣装や演出などのユニークさを競うコスチュームの部、小学生以下の子供の部に分かれて行われ、町外からも多くの参加者が集まり全部で二十二チームが出場しました。

タイムレース、子供の部ともに、どのチームも力を合わせて重たい木馬を引いて走り、多くの声援を受け最後まであきらめることなくゴールしました。

パフォーマンス・コスチュームの部では、二チーム

が参加し、それぞれ個性的なコスチュームとパフォーマンスで大会を盛り上げてくれました。天候にも恵まれ、大勢の方が集まりにぎわいを見せた、秋の一日となりました。

木馬引き大会結果

大人の部

順位	チーム名	タイム
1	オカマックス	2 4秒 2 9
2	横内牛乳店	2 5秒 7 9
3	関所ブラザーズ	3 3秒 4 5
4	上松電子 製造部	3 3秒 4 7
5	愛される漢パス	3 3秒 5 2
6	木曽南部森林組合	3 3秒 6 9
7	第1分団	3 4秒 2 2
8	関西電力(株)木曽水力センター	3 4秒 5 0
9	ラインマン	3 6秒 5 5
10	上松町役場	3 7秒 7 7
11	範馬会	3 8秒 3 9
12	もうすぐ八十二長野銀行	3 9秒 9 5
13	上松電子 品証部	4 0秒 6 3
14	木曾かめ君と愉快的仲間たち	4 3秒 0 4
15	友好都市 那智勝浦町	4 9秒 4 9
16	上松中学校 男子バスケットボール部	5 0秒 0 8

パフォーマンス・コスチュームの部

順位	チーム名	合計点
1	湯屋一同	48.4
2	僕たちいつまでも少年！	46.0

子供の部

順位	チーム名	タイム
1	Departure-1	3 6秒 5 1
2	Departure-2	3 8秒 1 0
3	かやの木芸術舞踊学園 ゆきこま会 上松教室	4 7秒 7 6
4	峰丈流 空手教室	1分0 0秒 8 6



第四十九回 上松町総合文化展

十月二十一日(火)から二十六日(日)までの六日間、上松町公民館・社会体育館で「第四十九回上松町総合文化展」が開催されました。

会場には三十一の団体・個人から出展された絵画や写真、陶芸品、手芸品など約八百点もの作品が展示されました。



どの作品も作者の思いが込められた、素晴らしいものばかりでした。展示作品には、上松町ゆかりの日本画家 羽毛田陽吉氏の絵画や、上松町の友好自治体である和歌山県那智勝浦町から絵画交流作品の出展もありました。

今回の文化展では開催された六日間で、約二百八十名の方が観覧に訪れました。

第九回 木曽地域ボーダレスアート展

COLORS

十月二十四日(金)から二十六日(日)の三日間、ひのきの里総合文化センターで「第九回木曽地域ボーダレスアート展 COLORS」が開催されました。

「COLORS」は木曽郡内の福祉施設利用者や養護学校・地元小学校支援クラスに在籍している児童・生徒の創作活動を発表する場として



平成二十九年から開催されており、「第二十八回長野県障がい者文化芸術祭」の巡回展も合わせて開催されました。

会場には木曽地域の施設、養護学校、小中学校等十団体の方達からの作品七十点に加え、県文化芸術祭の受賞作品二十四点も展示されました。

アート展には三日間で約百六十人の方が訪れ、個性的で作者の思いや感情のこもった作品を見て楽しみました。



十月三日（金）に上松町社会体育館で、令和七年度の上松保育園運動会が行われました。

園児たちはかけっこやパン食い競争、玉入れ、ダンスなど、今まで一生懸命練習してきたことを伸び伸びと披露し、元氣よく、力を合わせて全力で運動会を楽しみました。

体育館には、保護者や地域の方々が園児たちの活躍を見に訪れ、競技に挑む園児たちへ応援と拍手を送りました。

また、園児と保護者が協力して、じゃんけんを負けるたびに折りたたんで小さくなる新聞紙の上に、最後まで乗っていただけるかを競う親子ゲーム「新聞おりおりゲーム」も行われ、親子で一緒に運動会を楽しむことができました。

最後には、未満児から年長組まで、元氣いっぱい運動会を見せてくれた園児たち全員に金メダルが贈られ、園児たちは大喜びしていました。



令和七年度 上松保育園運動会





どの学年も、息の合った
歌い響かせました。

また、今年は二十年に一度の御神木祭の年であることから、児童全員で木遣り唄を披露し、体育館に力強い歌声を響かせました。

発表会には第一部と第二部に分かれ、発表前には曲目の紹介や練習時の苦労話、発表前の意気込みなどが、児童から語られました。

十月十日（金）に、上松小学校で令和七年度の音楽会が開かれ、児童たちは学年ごとに、日頃から練習してきた合唱や楽器演奏の成果を披露しました。

演奏と会場いっぱい響いた歌を披露し、児童たちの見事な発表に聞き入った保護者や地域の方々、先生達から沢山の拍手が送られました。

令和七年度 上松小学校音楽会



上松小学校・上松中学校 「夢の教室」開催

十月十七日（金）に、上松小中学校それぞれにおいて、小学校五年生と中学校二年生を対象に「夢の教室」が開催されました。

この事業は、二〇〇六年に子どもたちを取り巻く環境として、「いじめ」「自殺」「引

きこもり」「無気力」などが大きく社会問題としてクローズアップされたことから、日本サッカー協会が「子どもたちのために何かできないか」「問題の乗り越え方のヒントを与えることができるのでは」と考え、二〇〇七年より、

社会貢献活動「JFA

Aこころのプロジェクト」として始められました。スポーツ選手をはじめ、様々なジャンルのプロフェッショナルを「夢先生」として学校へ派遣し、「夢を持つことや、その夢に向かって努力することの大切さ」や「仲間と協力することの大切さ」などを伝えるものです。

今回はダブルダツ



チ（二本の縄跳びを使い、技を交えながら跳ぶ競技）でシルクドソレイユのショーに出演する等世界的に活躍しているプロチーム「CAPLIO RE（カプリオール）」のリーダーNOBU（ノブ）さん、夢先生として来ていただきました。

ゲームの時間では、一人が縄跳びを回しながら移動し、一列になった人達と順番に跳ぶ「トラベラー」というゲームを行いました。NOBUさんが回す縄跳びを一人ずつ跳び、失敗してもクラス全員でアイディアを出しながら続け、見事クラス全員で跳ぶことが

できました。このゲームを通じて緊張をほぐすと共に、みんなで力を合わせて問題に取り組むことで、クラス全体が「協力すること」「思いやりの心」「全力で取り組むこと」の大切さを学びました。

教室に移動してからのトークの時間では、NOBUさんが「夢曲線」を黒板に描きながら、夢に向かって、いつ来るかわからないチャンスをつかむため、今自分にできることを続けることの大切さや、失敗が新しい出会いのターニングポイントになったこと、東日本大震災の被災地で、ダブルダツチを披露し感謝された体験を語り、「『ありがとう』は魔法の言葉、

「夢を持つて、それに向かってあきらめない大切さ」などを子どもたちに伝えました。

子どもたちは、この教室を通じて、自分の夢について改めて考える時間を持つことができ、将来について考え、

夢に向かって努力することの大切さを学ぶことができる貴重な体験となりました。





地域おこし協力隊だより

【坂 陸 隊員】

上松町の皆様、お久しぶりです。

急に寒くなり温度差にかなりやられているこの頃ですが、変わらず空き家の活用促進に向け、見えないところはありますが動いております。

私事です、最終年度の動きを考え始める時期になって来ました。空き家に携わり1年半が経過しましたが、目に見える成果を皆様にお見せできず足踏みしているように見えるかも知れません。しかし、実態はこちらが掲示できる条件も限界があり、なかなか活用できる物件も少なく、大きなモノですから国庫補助金の活用にも条件がありと、どうしたら諸々クリアして、新たな命をその物件に吹き込めるかななどを思案しています。

空き家を調査する中でも「この駅前の物件はこうなったらいいな。」とか「ここは静かに暮らしたい人向けに、こんな改修ができたらいいな。」なんて想像は出来るのですが、箱を整えたところで、営みがなければ「空き家」でしか無いのがこの活動の難しいところだと痛感しております。

完璧な流れとしては、外から人を呼び、同一人物の来町回数を重ね、移住したいと思わせて、空き家を活用する。ここまでが一番の流れだと思っていたながらも、なかなかうまく行かないのが僕としてはとてももどかしい次第です。

余談程度ですが、これをご覧いただいている方で、もし空き家をお持ちで困っていたらお声がけください。

あと1年、この「地域おこし協力隊」という肩書きで町へ何を残し、影響を見いだせるか。可能な限り取り組んでいきます。

ps.「上松町（超）回復会議」という町をもっと住みやすく、面白くしたい！という企画を定期的に企画しています。広報にも流しますので、是非一度ご参加ください。

【尾上 季里子 隊員】

生涯学習担当の尾上季里子です。11月2日、3日の2日間、地域おこし協力隊主催のクラフトフェア『上松凱旋者（あげまつがいせんもん）』を開催しました。今年度は上松技術専門学校の79周年記念企画『椅子展』も同時開催で、木工品の販売やワークショップ、特産品やお菓子の販売など楽しんでいただきました。

今年の凱旋者は、上松技術専門学校の体育館を会場に開催され、その室内外の装飾を尾上一生隊員と共に担当しました。

町外から来られる方への目印に、道路沿いに設置した『のぼり旗』もひとつひとつ手作業でべんがら染めで制作しています。型染めという技法で『上松凱旋者』の文字を染色や糊で防染し、赤と黒の酸化鉄で染色を行ったもの、板締め絞りという技法で麻の葉模様染色した赤をメインとした華やかなのぼり旗が出来上がりました。

会場の体育館の入口や会場内の壁には大きな布に糊で絵を描いて染めた凱旋者の看板や睡蓮染めという技法で染めた布や手ぬぐいをメインに壁に飾りました。

土を染料にして染めた布は優しい風合いで木工品にもなじみ、私たちのこだわりが詰まった装飾となりました。メインは木工市ですが、べんがら染めも多くの方々に見ていただく良い機会になったと思います。

のぼり旗や装飾品は、今後も毎年使用していく予定なので、上松凱旋者のイメージのひとつとなっていけば嬉しいです。

また、会場内のキッズスペースも担当し、積み木や塗り絵コーナーを作りました。塗り絵の色鉛筆は上松町内で拾った小枝を利用して制作し、木の感触や香りを感じながら塗り絵を楽しんでもらいました。色鉛筆作りは簡単なので、今後子どもたちと制作やナイフワークの企画も思案中です。

ご来場いただきましたみなさまありがとうございました。

健康増進センターリレートーク・・・健康とデータ111



美林ちゃん（美）

「障害者週間」



太郎ちゃん（太）

美：ねえ太郎ちゃん。この言葉、聞いたことある？

太：「障害者週間」・・・聞いたことはあるけど、よく知らないよ。

美：国では毎年12月3日から9日を「障害者週間」と定めているんだよ。この期間に、国や地方公共団体を中心に、障がいや障がい者についての理解を深めたり、障がいのある人があらゆる分野の活動に参加することを促進するための啓発行事が行われるんだよ。

太：そうなんだ！上松町では何か行事はあるのかな？

美：うん！あるみたいだよ。12月7日（日）に、社会体育館で「パラスポ体験会」が行われるんだって。「パラスポ」って知ってる？

太：知ってるよ！「パラスポーツ」でしょ。ボッチャとか、車いすバスケットボールとか、パラリンピックも見たことがあるよ。

美：そうそう。上松町の「パラスポ体験会」でも、ボッチャを体験できるみたいだよ。ボッチャの大会もあるみたいだから、チームを作って参加するのもいいね！

太：パラスポって障がいのある人もない人も、大人も子どもも一緒に楽しめるスポーツだよな。

美：障がいて聞くと身構えちゃうこともあるけど、スポーツを通じて少しでも理解できたらいいね。

パラスポ体験会の他に、上松町公民館図書室において11月27日から12月11日まで、障がいに関するさまざまな書籍のコーナーが設置されます。ヘルプマークやルーペなど、実物の展示もあります。ぜひこの機会に、公民館図書室にお越しください。（パラスポ体験会は、11月13日発行の「ゆうゆう通信」をご覧ください）

<信州あいサポート運動> 長野県では、誰もが多様な障がいの特性、障がいのある方への必要な配慮、障がいの有無に関わらず共に生きる社会の在り方などを理解して、障がいのある方に対してちょっとした手助けや配慮を実践することにより、障がいのある方が暮らしやすい地域社会を県民の皆さんと一緒に作っていく運動を行っています。

<あいサポーターについて> 「あいサポーター」とは、多様な障がいの特性、障がいのある方への必要な配慮などを理解して、日常生活において障がいのある方が困っている時などにちょっとしたお手伝いをする意欲がある方なら誰でもなることができます。（あいサポーター研修の受講が必要です）

上松町では今年度、役場職員・議会議員合わせて75名が受講しました。企業や学校、地域でも研修会を行うことができますので、興味のある方は、福祉係までお問い合わせください。

※固有名詞や法律に基づくものは「障害」、一般的な文脈の中では「障がい」と表記しています。

障がいを理由とする差別などに関する窓口は、住民福祉課福祉係 電話 0264-52-5550 です。

町の情報は
こちらから
上松町公式サイト



<http://www.town.agematsu.nagano.jp/>



※情報掲載に同意を頂いた方のみ掲載しています。

西村 聡一郎	武居 美好	大澤 攻	下村 榮子
63歳	89歳	84歳	99歳
下町	倉本下条	小田野	倉本下条

ごめいふくをお祈りします



（敬称略）
十月